

3月の星空まっぷ

【3月中旬、午後8時頃に見える星空】

何度も強烈寒波が押し寄せ、大雪や寒さに苦しめられた日本列島だったね。でも3月と聞くと、何となく身も心も暖かくなる感じがする。さあ、冬から春へと続く星空の世界に出かけよう！

はい。冬の星たちが段々見えなくなるね。今度は、東の空に春の星たち…。ホミリー、楽しみだよ！

北の空、仲良く回る

星座に注目しよう！

北の空に明るく輝く7つの星並び。みんな良く知っている「北斗七星」だ。この北斗七星、星座の名前だと思っているかもしれないけど、春を代表する大きな星座、「おおぐま座」の腰から尻尾のところに並ぶ星たちだ。北斗七星の星並びは、とても分かりやすく覚えやすいので、世界的に親しまれており、日本ではひしゃく形、世界でも乗り物などの名前前で呼ばれているよ。

この北斗七星から「北極星」を探すことができるんだけど、知ってるかな？ ひしゃくのカップの外側の2つの星の長さを、水の入る方向に5倍して行ったらの星が北極星だ。北極星は「こぐま座」のしっぽの先の星。まっぷで確認して見てね。春の星空は、このおおぐま座とこぐま座探しから始めよう。この2つの星座は、星空の下で僕たちに方位を教えてくれる星たちだってことも知っておこう。ところで、このおおぐま座、こぐま座には、こんな神話世界の言い伝えがあるんだ。『ホントは人間だったのに、あることがきっかけで母親はクマに変えられ、森の中へ。やがて立派に成長した少年は、森の中で大きなクマと出会うが、自分の母親とも知らず弓矢をかまえてしまう。あわれに思った大神ゼウス、少年をこぐまに変えて2人を星空に上げたと言う』



わたし、「ホミリー」

N7F



ぼく、「星ぼう」

2025.3

星爺(ほしじい)

＝もっと知ろう＝宇宙船『地球号』!

地球が太陽の周りを1年かけて回る(公転と言う)と、これが1年。そして、地球が毎日グルッと1回転(自転と言う)すると、これが1日24時間。

そんなこと皆一んな知ってるし、何も気にしないで、毎日が過ぎていく。そして、自分たちが住んでる地球のことについても、ほとんど意識することなんて無いんじゃないかな?そこで、ここでは、みんなを乗せて宇宙を突っ走る生命の星、宇宙船『地球号』のアコレの1コマに迫ってみよう。

- ◎大きさ 半径約6400km
グルッとひとまわり約4万km
- ◎回転速度 約1700km/時
- ◎公転速度 約30km/秒
- ◎自転軸の傾き 23.4度
季節の変化はこれに起因

◎太陽からの距離 約1億5000万km。では月までは?

◎宇宙はどこから?

100km上空から先の空間

◎磁場の存在 太陽風から地球を守る。極付近上空にオーロラを発生

『土星の環』が消えるってホント?!

3月24日から5月にかけて、そして11月25日頃の2回、土星の環が消える。16年ぶりに見られる「土星環の消失」と呼ばれる現象なんだって。とは言え、春の環の消失は、残念ながら土星が地球から見て太陽の反対側にいるため、土星そのものも見るのが難しい。期待できるのは、秋の輪の消失。宵の南の空に「環のない土星の姿」をバッチリ見ることができるよ。このチャンス、逃さないようにね!

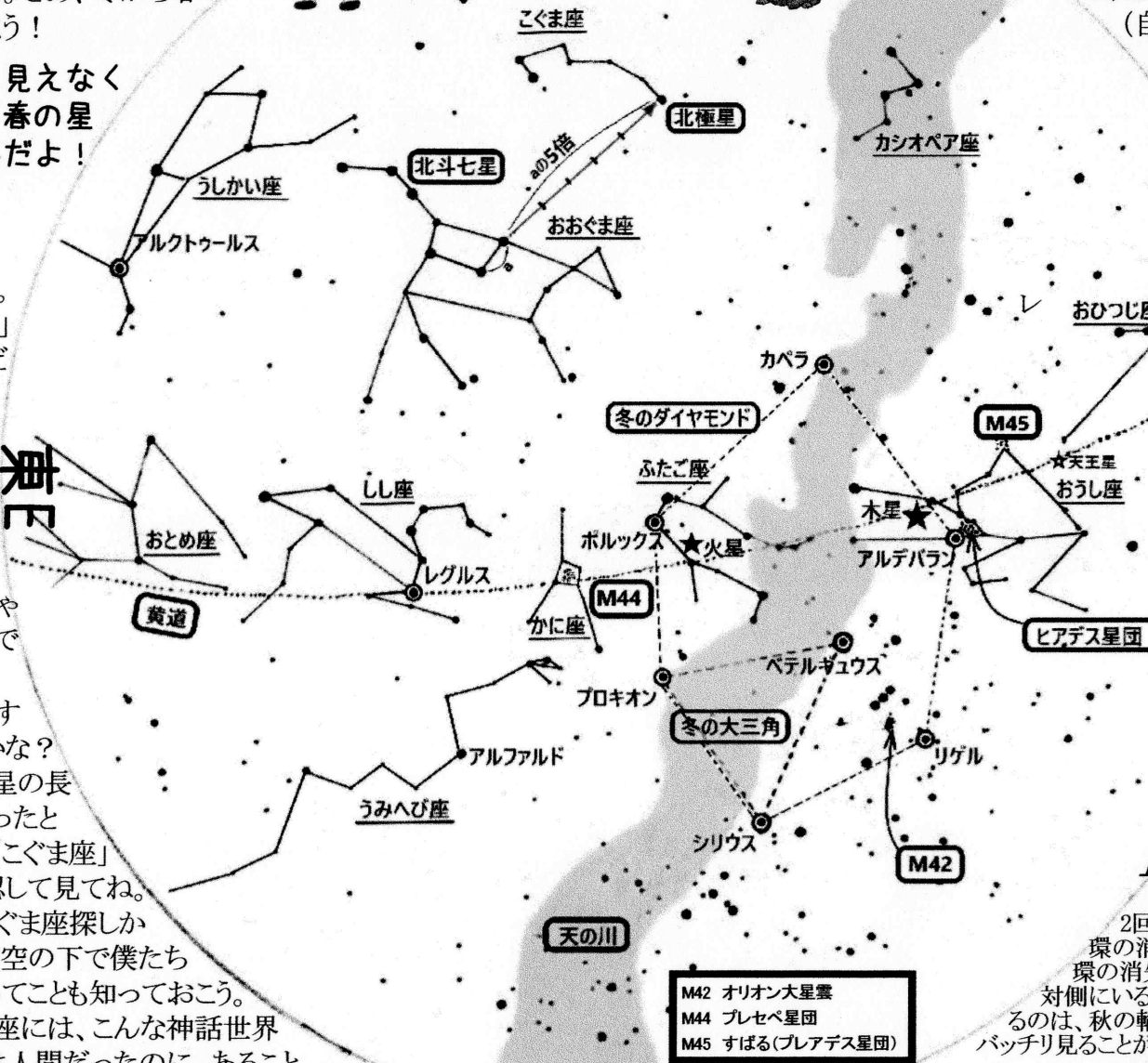
『星空まっぷの見方』

南の星空を見上げる時は「南」を下に、北を見る時はまっぷをさかさまにして「北」を、同様に東の空は「東」、西の空は「西」を下にして見上げてね!

東 E

西 W

南 S



- M42 オリオン大星雲
- M44 プレゼペ星団
- M45 すばる(プレアデス星団)

【黄道】
天空の星座のあいだを移動する太陽の見かけ上の通り道

- 1等星以上
- 2等星
- 3等星
- 4等星以下